南一弘の

街を行く

第41回 川越 Kawagoe

大人のテーマパークです

西武新宿線・特急「小江戸号」に揺られ小京都・川越の街を訪ねました。都心から約1時間、当初は少し遠いのかなと思いきや実は意外に近いと、まずは認識を改めさせられました。また、空気が冷たいこの季節、人はまばらかと思いきや目の前には結構な人の波。近年訪れた数多の街の中でも驚くほどの繁盛ぶりに脱帽しました。街を歩けば歩くほどに魅力が溢れる、これぞ「大人のテーマパーク」でした。

川越は、歴史的には“北の守り”と位置づけられ、江戸時代は酒井、堀田、松平、柳沢といった錚々たる幕府の重臣が川越藩主を務めています。これらの中で少しアクのあるキャラクターと言えば柳沢吉保でしょう。彼は元禄の時代、五代将軍徳川綱吉から登用された人物。お犬様で有名な生類憐みの令を制定したとか、時代劇の忠臣蔵では冷徹な裁きをしたとか、権威に寄り沿った大衆の敵役としてあんまりイメージが良くない存在ですよね。でも街の雰囲気は違います。お仕着せがましさなど微塵もない、逆に伸び伸びしています。街の自然・歴史的資産と人がうまく溶けこんでいる気がするのです。言うなれば“肩に力が入っていない”訪れる人をリラックスさせてくれる感じ。街おこしのポイントは実はこれなのかもしれませんね。来た人に街の特色を知ってもらおう、もてなそうと頑張っているのはわかるけど、これでもかこれでもかとアピールされ気持ちが疲れてしまったケースも多かったですから。何事も上手く力が抜け自然に良さが出せれば、後はこちらのものなのです。

川越の街のシンボル「時の鐘」。歴史的建造物が街に自然に溶け込み人を集め和ませる

街に目を移しますと、シンボル的な「時の鐘」は見落とせませんね。また、今に残る蔵造りの町並みは当時に思いを馳せずとも、そぞろ歩くだけで自然にタイムスリップし当時の生活に入り込めていける感覚です。これは人が鑑賞する目的でつくられた街ではなく、今でもしっかり“使われている街”だからなのでしょう。無論、昔とはその使い方も役目も違いますが、何か生活感が感じられると、見る側としてもほっとするのです。でも、これを維持しながら使っていくのは大変なこと。何より維持費が並大抵ではないし、生活利便性を考えると無駄も多いでしょう。町や市から補助金が出るとは言え、それだけでは十分賄きれるものではありません。何より和の時代建造物の中は冷えるのですよ、断熱材など使っていないですから。

色々と考えながら、今回も歩き回りました。朝から夕方まで子供の様に街中を散策しましたが、それでも回り尽くせません。その間の買い食いも楽しみのひとつでした。甘酒にはじまり饅頭にぬれおかき、名物はなんと言っても「芋」でしょう。沢山の芋を使ったお菓子がありましたよ。もちろん一杯買い込みました。今回は本当に楽しい大人の遊園地でした。

南 一弘

1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役に就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。

BLOG「南一弘の負けない不動産投資」
http://blog.livedoor.jp/minami_kazuhiro